

学生確保の見通し等を記載した書類（目次）

1. 新設組織の概要	2
1) 新設組織の概要（名称、入学定員、収容定員、所在地）	2
2) 新設組織の特色	2
2. 人材需要の社会的な動向等	2
1) 養成する人材の全国的、地域的、社会的動向の分析	2
2) 入学対象人口の全国的、地域的動向の分析	4
3) 主な学生募集地域	5
3. 学生確保の見通し	5
1) 学生確保に向けた具体的な取組と見込まれる効果	5
ア 既設組織における取組とその目標	5
イ 新設組織における取組とその目標	6
ウ 当該取組の実績の分析結果に基づく、新設組織での入学者の見込み数 .	6
2) 競合校の状況分析	6
ア 競合校の選定理由と新設組織との比較分析、優位性	6
イ 競合校の入学志願動向等	10
ウ 学生納付金等の金額設定の理由	10
3) 学生確保に関するアンケート調査	10
4) 人材需要に関するアンケート調査	11
4. 新設組織の定員設定の理由	13

学生確保の見通し等を記載した書類

1. 新設組織の概要

1) 新設組織の概要（名称、入学定員、収容定員、所在地）

順天堂大学大学院保健医療学研究科理学療法学専攻の課程を変更する。新設する組織の名称等は以下のとおりである。

新設組織	入学定員	収容定員	所在地 (教育研究を行うキャンパス)
順天堂大学大学院 保健医療学研究科 理学療法学専攻 博士後期課程	4	12	東京都文京区本郷 2丁目1番1号

2) 新設組織の特色

本学は学是「仁」の精神を基に、「不断前進」を教育研究の理念とし、他者を思いやり理解する心・感性を持ち、現状に満足せず、常に高い目標を目指して努力を続ける人材を育成していくことを目指している。

保健医療学研究科博士後期課程では、基礎とする保健医療学研究科博士前期課程の理学療法学、およびその関連領域における学識をさらに発展させ、高い専門性と発展的な理学療法学の知識・技術に基づき、新たな理論構築や方法論を展開できる能力、専門的知識・技術を駆使し、自ら研究プロジェクトを高い倫理観を持って厳格に遂行できる能力、研究成果を国内外に発信し、理学療法学の研究の発展に貢献できる能力を有することで、理学療法学の研究を積極的に推進し、質の高い理学療法学の基盤を創造、ならびに後進の指導を行い得る人材の育成を目的とする。

2. 人材需要の社会的な動向等

1) 養成する人材の全国的、地域的、社会的動向の分析

急速に進む社会の少子高齢化や、人々の生活習慣・生活環境の変化による疾病構造の変化に伴い、医学・医療技術が多様化・専門化するとともに、学術研究の高度化や学際化が進展し、医学・医療を取り巻く環境は大きな変化をみせている。国民が心身ともに健康で、日々充実した生活を送ることができるためには、医療・介護・福祉等に係る社会的インフラの整備・充実を図るとともに、医療現場や地域社会で国民の健康と生活を支援する医療専門職者が各々の専門性を高め

ることが不可欠である。

本学は平成31年4月に保健医療学部を開設し、理学療法学科を設置した。超高齢社会でニーズが高まる理学療法士を養成している。さらには、令和5年4月に大学院保健医療学研究科理学療法学専攻修士課程を開設し、理学療法学に関する専門的知識や技術の基本的応用能力、および当該分野の諸問題に対して体系的に整理し客観的に分析する能力を持つ人材の養成に着手している。

本学の位置する東京圏においては、特に人口の多い東京23区で急速な高齡化が進展している。東京都総務局の「令和5年 敬老の日になんだ東京都の高齡者人口（推計）」の概要によると、令和5年9月15日時点の東京都の高齡者（65歳以上）人口は、311万4千人で、前年と比べ1千人増、高齡化率は23.5%で、前年と比べ0.1ポイント上昇、過去最高を更新している。特に、75歳以上の人口は176万1千人で、前年と比べ5万7千人増加している【資料1】。今後も高齡者人口は増加が続き、2025年には約325万人、2030年には約340万人（高齡化率は24.3%）、2040年には約394万人（高齡化率は29.3%）に達すると見込まれている【資料2】。

【資料1】 令和5年「敬老の日になんだ東京都の高齡者人口（推計）」

【資料2】 2060年までの東京の人口推計

高齡者は他の年齢層より加療率が高く、多様な疾病を抱えていることから、社会の高齡化とともに医療・介護の支援が必要な高齡者は急速に増大する。特に東京都を含む南関東1都3県では、2040年ごろに医療需要がピーク迎えると予想されている【資料3】。

【資料3】 医療需要ピークや医療福祉資源レベルの地域差を考慮した医療福祉提供体制の再構築

このように近年の高齡化の進展や疾病構造の変化、質の高い医療を求める国民の意識の変化等に伴い、高度な専門知識を有する指導的高度医療専門職者や、拡大を続ける理学療法学分野における研究を積極的に推進し、質の高い医療の基盤を創造する人材の養成・確保が急務となっている。

具体的には、理学療法分野では、患者の高齡化が進み、中枢神経系疾患や運動器疾患に加えて、循環器疾患、呼吸器疾患、腎疾患といった内科系疾患患者が増加している。それも単一疾患でなく、多疾患・重複障害を合併する患者が増え、複雑な症状を呈する理学療法対象者は少なくない。

少子高齡化の中、労働者人口の確保のためにも、障害を持ちながらも働き続けられることが重要で、労働者のプレゼンティズム（健康の問題を抱えつつも仕事を行っている状態）は、労働生産性を減少させるばかりか、離職や失業につながることから、身体機能を少しでも早く、そしてより高い状態まで回復させたいという患者の期待や社会の要望も高い。

また、医療・介護・福祉サービスの提供体制にも大きな変化が生じており、住み慣れた地域で自分らしい暮らしを人生の最後まで続けることができるよう、住まい・医療・介護・予防・生活支援が一体的に提供される地域包括ケアシステムの構築が進んでいる。

このように理学療法分野の対象者は多様化・複雑化し、理学療法学の適用範囲も拡大を続けていることから、高度な専門知識を有する指導的高度医療専門職者や、拡大を続ける理学療法学分野における研究を積極的に推進し、質の高い理学療法の基盤を創造する教育者・研究者が求められている。

2) 入学対象人口の全国的、地域的動向の分析

本研究科博士後期課程の出願資格は以下のいずれかに該当する者であり、主に理学療法士の資格を有する者を想定している。

- (1) 修士(理学療法学に関連する分野)の学位を有する者
- (2) 学校教育法第 104 条第 7 項により修士(理学療法学に関連する分野)の学位を授与された者
- (3) 外国において修士(理学療法学に関連する分野)の学位に相当する学位を授与された者
- (4) 文部科学大臣の指定した者
- (5) 本大学院が個別の入学資格審査により修士の学位を有する者と同等以上の学力があると認めた者で 24 歳に達した者

日本理学療法士協会の資料によると、理学療法士養成校および養成校の入学定員は毎年増加している【資料 4】。養成校の増加に伴い、平成 24 年度以降は毎年約 10,000 人が理学療法士国家試験に合格しており、同協会の会員数も 130,000 人を超える規模となっている。【資料 5】のとおり、2023 年 3 月末現在、同協会会員数の 21.3%にあたる 29,046 人が東京都、神奈川県、千葉県、埼玉県の南関東 1 都 3 県に在籍している。より高度な専門性と実践能力をもつ理学療法士が必要とされている一方で、理学療法学に特化した大学院修士課程(博士前期課程)は南関東 1 都 3 県でわずかに 2 校、博士後期課程は南関東 1 都 3 県でわずかに 1 校しか存在しない【資料 6】。今後さらにニーズが高まる高度な専門性と実践能力をもつ理学療法士を養成する大学院研究科として、本学の位置する南関東 1 都 3 県で定員を確保することは可能と考える。

【資料 4】 理学療法士養成校数、理学療法士国家試験合格者の推移

【資料 5】 日本理学療法士協会・都道府県別会員数

【資料 6】 南関東 1 都 3 県の理学療法学科を標榜する大学の大学院設置状況と取得できる学位

3) 主な学生募集地域

全国的、地域的、社会的な動向、および本研究科理学療法学専攻修士課程の入学対象者の動向から、主な学生募集地域は東京都、神奈川県、千葉県、埼玉県とする。加えて、下表に示すとおり、本研究科博士後期課程の基礎となる保健医療学部理学療法学科における過去3年間の出身高校の所在地県別入学者数、および2023年度に開設した大学院保健医療学研究科理学療法学専攻修士課程に在籍する学生の出身県別入学者数より、入学者の多くが1都3県からの入学であることが確認されている。これらの実績に基づき、主な学生募集地域を東京都、神奈川県、千葉県、埼玉県とすることは妥当と考える。

なお、参考資料として、日本私立学校振興・共済事業団の「私立大学・短期大学等入学志願動向」より、博士課程及び博士後期課程の定員充足状況を示す【資料7】。

【資料7】 新設組織が置かれる都道府県への入学状況（別紙1）

保健医療学部理学療法学科 出身高校の所在地県別入学者数

入学年度	入学者数	東京都	神奈川県	千葉県	埼玉県	それ以外
2021年度	121人	43人	12人	19人	14人	33人
72.7%						27.3%
2022年度	122人	36人	13人	31人	19人	23人
81.1%						18.9%
2023年度	121人	33人	7人	25人	14人	42人
65.3%						34.7%

大学院保健医療学研究科理学療法学専攻修士課程 出身県別入学者数

入学年度	入学者数	東京都	神奈川県	千葉県	埼玉県	それ以外
2023年度	19人	9人	2人	5人	1人	2人
89.5%						10.5%

3. 学生確保の見通し

1) 学生確保に向けた具体的な取組と見込まれる効果

ア 既設組織における取組とその目標

本学は2023年4月に大学院保健医療学研究科を開設した。学生募集のためのPR活動として、基礎となる本学保健医療学部の4年生を主な対象とした研究科

説明会を開催した。説明会では、本研究科の概要に加え、専攻領域の選択や指導教員との事前面談など、出願にあたっての注意事項や具体的な手続き等について丁寧に説明した。2023 年度に開催した説明会には 8 名が参加し、そのうち 5 名が受験するなど、極めて志望度の高い学生の参加があったことが確認された【資料 8】。また、本学保健医療学部理学療法学科は入学定員 120 名、収容定員 480 名という日本有数の規模である。その規模の臨床実習を実施するため、保健医療学部理学療法学科では 280 を超える医療機関等を臨床実習施設として登録しており、協力体制が構築されている。臨床実習実施の事前に、本学の専任教員が直接臨床実習施設を訪問しており、その際に本研究科に関する PR 活動を行っている。加えて、本学はわが国で有数の規模を誇る 6 つの医学部附属病院を有しており、2024 年 3 月時点で 146 名の理学療法士が在籍している。医学部附属病院のリハビリテーション室とは、本研究科教員が臨床を行うなど、密接な連携体制が築かれており、附属病院に在籍する理学療法士に対し、本研究科に関する PR 活動を積極的に行っている。

【資料 8】 既設学科等の学生募集のための PR 活動の過去の実績（別紙 3）

イ 新設組織における取組とその目標

学生確保に向けて、設置認可申請書の受理後に、本研究科修士課程 2 年生と社会人を対象とした研究科説明会を開催する。入学試験の出願開始時期に合わせて 2 回開催し、本研究科博士後期課程に関する PR 活動をより広く展開する。臨床実習施設、および本学医学部附属病院に向けての PR 活動も引き続き継続する。

ウ 当該取組の実績の分析結果に基づく、新設組織での入学者の見込み数

本研究科博士後期課程の入学定員 4 名を充足するため、各 PR 活動における具体的な数値目標を設定する。2023 年度に開催した研究科説明会には 8 名が参加し、5 名が受験している。博士後期課程においては、開催回数を 2 回とすることにより、参加者数を同数程度と見込んでおり、そのうち 2 名を入学者数の目標とする。臨床実習施設に向けた PR 活動、および本学医学部附属病院への PR 活動では、それぞれ 1 名の入学者獲得を具体的な数値目標とし、入学定員 4 名を充足する。

2) 競合校の状況分析

ア 競合校の選定理由と新設組織との比較分析、優位性

【競合校の選定理由】

南関東 1 都 3 県の理学療法学科を標榜する大学の大学院設置状況【資料 6】か

ら、東京都立大学大学院人間健康科学研究科博士後期課程理学療法科学域を競合校として選定する。東京都立大学のホームページから得られる情報をもとに、競合校設定の観点に基づいた比較を下表に示す。

競合校設定の 観点	順天堂大学大学院保健医療学研究科 理学療法学専攻博士後期課程	東京都立大学大学院人間健康科学研究科博士後期課程理学療法科学域
学校種	大学	大学
定員規模	4名	5名
学問分野	保健	保健
所在地	東京都文京区本郷 2-1-1	東京都荒川区東尾久 7-2-10
養成する人材 像	学是である「仁」の心を兼ね備え、国内外を問わず多様な場で社会に還元・貢献できる専門知識と専門技術、及び高度な研究能力を有し、理学療法学の研究を積極的に推進し、質の高い理学療法学の基盤を創造、ならびに後進の指導を行い得る人材の養成を目的とする。	国際的視野に立脚した独創性ある研究を自立して行うことが可能で、理学療法各領域の教育者および研究者となる人材を育成する。
学力層（求める 学生像）	<ul style="list-style-type: none"> ・博士前期課程等で修得した専攻分野の基盤となる知識・技能、柔軟な思考力と倫理観を兼ね備えている人 ・豊かな人間性と強い探求心をもち、理学療法学分野の発展のため、自立して研究に取り組む姿勢がある人 ・理学療法学分野に高い知的関心を持ち、最先端の研究に目を向け、研究をやり遂げ、研究成果を国内外に発信する英語力のある人 ・博士後期課程で修得した高度な教育研究能力を活用し、理学療法学の発展に貢献する強い意志のある人 	<ul style="list-style-type: none"> ・専門領域において、新たな理論構築に意欲を持ち続けられる人 ・理学療法の発展を担う使命感を持つ人 ・当分野におけるリーダーとなる意欲のある人 ・協調性と自主性を併せ持ち、建設的な討論ができる人

取得できる 学位	博士（理学療法学）	博士（理学療法学）
-------------	-----------	-----------

本学および競合校の学校種はいずれも大学である。学問分野は学校基本調査の学科系統分類表では同じ保健に分類され、且つ取得できる学位の名称も同じく博士（理学療法学）である。定員規模について、本学は4名、競合校は5名とおおよそ同規模である。所在地はいずれも東京23区内に位置しており、ともに理学療法学の発展に貢献する強い意志のある者を求める学生像としている。養成する人材像について、本専攻では、「学是である「仁」の心を兼ね備え、国内外を問わず多様な場で社会に還元・貢献できる専門知識と専門技術、及び高度な研究能力を有し、理学療法学の研究を積極的に推進し、質の高い理学療法学の基盤を創造、ならびに後進の指導を行い得る人材の養成」を目的としている。選定した競合校においては、「国際的視野に立脚した独創性ある研究を自立して行うことが可能で、理学療法各領域の教育者および研究者となる人材の育成」を掲げている。いずれも理学療法学分野における教育・研究の基盤となる人材の養成を目的としている。いずれの観点においても極めて類似性が高いことから、競合校として選定した。

【競合校との比較分析、優位性】

東京都立大学のホームページから得られる情報をもとに、競合校との比較分析の観点に基づき、下表のとおり対比する。

比較分析 の観点	順天堂大学大学院保健医療学研究科 理学療法学専攻博士後期課程	東京都立大学大学院人間健康科学研究 科博士後期課程理学療法科学域
教育内容・ 方法	「神経・運動制御理学療法学領域」「運動器・スポーツ理学療法学領域」「内部機能障害理学療法学領域」の3つの領域を設け、博士前期課程における学識をさらに発展させる。博士前期課程の教育課程の上に積み上げる形として、さらに専門性を高めたコースワークとリサーチワークを適切に組み合わせる。 夜間開講。	「運動障害分析理学療法学分野」「身体機能回復理学療法学分野」「地域理学療法学分野」の3つの研究分野を設け、博士前期課程での学習・研究をさらに発展させる。 昼夜開講制。
入試	A日程（9～10月）	夏季入試（9月）

	B 日程 (1 月)	冬期入試 (2 月)
学生納付金 (初年度)	入学金 200,000 円 授業料 575,000 円 施設設備費 50,000 円 <hr/> 825,000 円	入学料 282,000 円 授業料 520,800 円 <hr/> 802,800 円
奨学制度	入学奨学金制度	大学院生支援奨学金
就職支援	保健医療学部キャリア支援委員会 キャリアセンター	キャリアカウンセラー 就職相談員
取得できる 資格	特になし	特になし
附属病院	あり	なし

本研究科博士後期課程においては、「神経・運動制御理学療法学領域」「運動器・スポーツ理学療法学領域」「内部機能障害理学療法学領域」の3つの領域を設け、博士前期課程における学識をさらに発展させることとしている。博士前期課程の教育課程の上に積み上げる形として、さらに専門性を高めたコースワークとリサーチワークを適切に組み合わせて教育を行う。競合校においては、「運動障害分析理学療学分野」「身体機能回復理学療学分野」「地域理学療学分野」の3つの研究分野を設け、博士前期課程での学習・研究をさらに発展させることとしており、教育内容に大きな差異はない。入学試験について、本研究科博士後期課程は2日程設ける予定であり、競合校と比較して実施回数と実施時期に大きな差異はない。学生納付金について、授業料に多少の差があり、修業年限での総額でみると競合校が1割ほど安価に設定されている。本研究科博士後期課程では本学大学院入学奨学金給付規程に基づき、本学出身者及び本学に勤務する者（入学手続時点で常勤の者）について、入学後に選考により、奨学金として入学金の半額を給付している。競合校については、成績優秀で優れた研究成果を上げている者を対象とする給付型の奨学金を制度として設けている。就職支援について、本研究科博士後期課程、競合校いずれも基礎となる学部のキャリア支援組織と連携して支援を行っている。いずれの項目についても大きな差異はみられないが、競合校に対する本研究科博士後期課程の優位性として、附属病院の有無が挙げられる。本学にはわが国で有数の規模を誇る医学部附属病院群を有しており、2024年3月時点で146名の理学療法士が勤務している。本研究科博士後期課程の入学対象者になり得るだけでなく、入学後に円滑な研究指導を受けられる面で優位であると考えられる。

イ 競合校の入学志願動向等

競合校のホームページ上で情報公開されている 2023 年度入学志願状況は以下のとおりである。

入学定員	志願者数	受験者数	合格者数	入学者数	定員充足率
5 名	9 名	9 名	6 名	6 名	1.2

2022 年度以前の入学志願状況は情報公開されておらず、状況が把握できないため、2023 年 5 月 1 日時点での在 student 数を下表に示す。

入学定員	収容定員	在 student 数
5 名	15 名	27 名

競合校においては入学定員および収容定員を上回る学生を確保しており、類似性が極めて高い本研究科博士後期課程についても定員を充足できるものと考ええる。加えて、本学は医学部附属病院を有していることから、入学者の安定的な確保が見込めるものと考ええる。

ウ 学生納付金等の金額設定の理由

競合校と比較し、学生納付金の額に大きな隔たりはない。本研究科はすでに修士課程を設置していることから、下表のとおり修士課程と同じ額に設定する。

入学金	授業料	施設設備費	初年度納入額	3 年間合計
200,000 円	575,000 円	50,000 円	825,000 円	2,075,000 円

3) 学生確保に関するアンケート調査

2024 年 1 月に、主に南関東 1 都 3 県の医療機関等に理学療法士として在職中の方、および本学大学院保健医療学研究科修士課程在学中の学生を対象に本研究科博士後期課程設置に関する入学意向調査を行った【資料 9】。医療機関については本学保健医療学部の臨床実習施設として登録している医療機関を選定した【資料 10】。その結果、下表に示すように、本研究科博士後期課程への高い進学意向が確認された。

【資料 9】 順天堂大学大学院保健医療学研究科博士後期課程（仮称）入学意向アンケート調査報告書

【資料 10】 調査対象とした医療機関等一覧

入学意向調査概要

- 調査対象：
- ① 順天堂大学大学院保健医療学研究科理学療法専攻修士課程 1 年に在籍する大学院生
 - ② 理学療法士として在職中の方

- 調査方法：①順天堂大学の学内 WEB システムにて大学院生に依頼
②郵送調査
- 調査地域：①順天堂大学（東京）
②理学療法士施設（東京、神奈川、埼玉、千葉、茨城、静岡）
- 配布件数：①理学療法学専攻 1 年次在学学生 19 件
②理学療法士所属 200 施設
※各施設に 5 部配布
- 有効回答数：①理学療法学専攻 1 年次在学学生 19 件
②理学療法士 264 件
- 回収率：①理学療法学専攻 1 年次在学学生 100.0%
②理学療法士施設 26.4%
- 調査時期：①2024 年 1 月
②2024 年 1～2 月
- 調査実施機関：株式会社高等教育総合研究所

本学大学院保健医療学研究科理学療法学専攻修士課程 1 年に在籍中の大学院生の進学意向（n=19）

受験意思 (第一志望)	入学意思	「博士後期課程進学」かつ「第一志望として受験する」かつ「入学する」かつ「修士課程修了後、直ちに進学」
16 人 (84.2%)	16 人 (100.0%)	5 人 (26.3%)

理学療法士として在職中の方の進学意向（n=264）

受験意思 (第一志望、第二志望、第三志望以降含む)	入学意思	「大学院（修士課程／博士前期課程）」かつ「理学療法士」かつ「第一志望として受験する」かつ「入学する」
72 人 (27.3%)	42 人 (58.3%)	9 人 (26.3%)

4) 人材需要に関するアンケート調査

本研究科博士後期課程設置にあたり、主に南関東 1 都 3 県の医療機関等のリハビリテーション室の技士長を対象に、独自の採用意向アンケート調査を実施した。その結果、下表のとおり、本研究科博士後期課程修了者に対する高い採用意向が確認された【資料 11】。

【資料 11】 順天堂大学大学院保健医療学研究科 博士後期課程（仮称）採用意向アンケート調査報告書

採用意向アンケート調査概要

調査対象： 医療機関のリハビリテーション室技士長
 調査方法： 郵送調査
 調査地域： 理学療法士施設（東京、神奈川、埼玉、千葉、茨城、静岡）
 配布数： 理学療法士所属 200 施設
 有効回答数： 理学療法士技士長 95 件
 回収率： 理学療法士技士長 47.5%
 調査時期： 2024 年 1～2 月
 調査実施機関： 株式会社高等教育総合研究所

本研究科理学療法学専攻博士後期課程修了者の採用意向（n=95）

採用意向	採用したい	採用を検討したい	わからない/ 採用しない
64 件 (67.4%)	23 件 (24.2%)	41 件 (43.2%)	31 件 (32.6%)

本研究科理学療法学専攻博士後期課程修了者を採用したい人数（単年度）（n=64）

0 人	1 人	2 人	3 人
28 件 (43.8%)	25 件 (39.1%)	8 件 (12.5%)	3 件 (4.7%)

医療機関以外の進路として、大学教員も想定される。令和 5 年度学校基本調査（文部科学省）によると、下表で示す通り、保健系の大学院博士課程修了者の就職者数は 4,904 人であり、そのうち 988 人（20.1%）が大学教員であった。本専攻修了者についても、本学をはじめとする大学の教員として就職することが見込まれる。

（表）保健系の大学院博士課程修了者の職業別就職者数（文部科学省・令和 5 年

度学校基本調査結果より)

区分	人数
専門的・技術的職業従事者	4,780
研究者	471
製造技術者（開発）	98
製造技術者（開発除く）	20
情報処理・通信技術者	18
その他の技術者	26
中学校教員	2
高等学校教員	1
中等教育学校教員	1
高等専門学校教員	3
短期大学教員	7
大学教員	988
特別支援学校教員	3
上記以外の学校の教員	19
医師，歯科医師，獣医師，薬剤師	2,771
保健師，助産師，看護師	65
医療技術者	189
その他の保健医療従事者	50
美術家，写真家，デザイナー，音楽家，舞台芸術家	1
その他の専門的・技術的職業従事者	47
管理的職業従事者	26
事務従事者	37
販売従事者	7
サービス職業従事者	8
保安職業従事者	1
農林漁業従事者	1
生産工程従事者	2
上記以外のもの	42

4. 新設組織の定員設定の理由

本研究科理学療法専攻博士後期課程の入学定員設定にあたっては、競合校の状況、および入学意向調査の結果から、入学定員を4名とした。